

# 令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書

制作団体名	株式会社ともしび
公演団体名	オペレッタ劇団ともしび

内容
<p>劇の冒頭で登場する、トラの子どもと人間の子どもとが遊ぶシーンでの、簡単な歌と踊りをワークショップで体験してもらいます（公演当日、舞台上で俳優と共演します）。このシーンはドラマ全体のテーマの伏線となる重要な場面なのですが、そのことがドラマの最後の方で子どもたちに（低学年でも）伝わり、参加した意義を深く感じてもらえることと思います。歌は全員に覚えてもらうことも可能です。</p> <p>踊りは人数が限定（30人程度まで）となりますが、ご相談して決めるようにいたします。今年度は授業日数の不足の状況を踏まえ、</p> <p>①公演当日の公演前に50分程度のワークショップを行い、本番の舞台上で共演する。 ②事前の練習は行わず、公演後に舞台裏見学、楽器や小道具を見学し説明を受ける、などの交流を行ってワークショップの代替とする。</p> <p>というパターンをもうけ、先生方と相談しながら進めることとします。</p>

タイムスケジュール（標準）
9：20 学校到着    9：35(2校時)ワークショップ開始    10：20～10：45 休憩 10：45 (3校時)再開    11：30 終了

派遣者数
3名

学校における事前指導
ご希望があれば事前に CD、楽譜をお送りし、聴いていただくことも可能です（短く簡単な曲ですのでワークショップ当日だけの練習でも十分覚えられるものです）。

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	株式会社ともしび
公演団体名	オペレッタ劇団ともしび

<b>演目</b>
オペレッタ「トラの恩がえし」

<b>派遣者数</b>
出演者7名 スタッフ1名 合計8名

<b>タイムスケジュール（標準）</b>
10:00 劇団員到着、仕込開始 11:40～参加児童リハーサル 13:15 児童入場開始 13:30 開演 14:50 終演 17:00 搬出終了、退出

<b>実施校への協力依頼人員</b>
終演後パイプイスの片付けを数名でお手伝いいただければ幸いです。

## 演目解説

原作は朝鮮民話「恩を返したトラ」です。

〈あらすじ〉昔々、朝鮮半島にはトラが住んでいました。人間はトラの毛皮を宝として狩り集め、トラは人間を喰い、憎みあって暮らしていました。山奥で母親と暮らす若い木こりが、痛みで苦しんでいるトラを助け、トラはその恩を密かに返していきます。トラのおかげで大臣の娘と結婚し、幸せに暮らす木こりは、ある日すべてがトラのおかげであることを知り、熱い友情の念を抱きますが、自分の寿命が残り少ないことを知ったトラは木こりに銃を手渡し、「俺を撃って手柄にしろ」といいます。撃つことが出来ない木こりの前で空砲を撃って絶命するトラ。若者は英雄として喝采を浴びますが、心の中で、トラとの永遠の友情を誓うのでした。敵同士という関係を超えて結ばれた木こりとトラの友情の物語です。

〈作品の特徴〉

- ①韓国・朝鮮の伝統音楽、民謡、美術を取り入れ、独特のリズムや曲調を、民族楽器を駆使して作品化しています。大道芸の妙技も見物です。
- ②生で歌い、演奏し、演じる音楽劇(オペレッタ)です。録音やマイクなど拡声機材を全く使わず、臨場感あふれた心と心が共振しあう舞台を大切にします。
- ③一般的に「悪条件」とされてきた体育館での演劇公演を、スタジアム風の座席を劇団が設営することで逆に好条件にしています。後ろの座席からもとても見やすく、躍動する演技者の姿を目の当たりに見ることが出来ます。また、暗幕を使わない開放的な公演であることも好評です。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

劇中で歌われる韓国・朝鮮童(わらべ)歌を、俳優と子どもたちが舞台上で一緒に歌います。トラの子どもと里の子どもが童歌を歌いながら遊ぶシーンにも踊りながら参加します。「村の子ども」チームと「トラの子ども」チームとが交互に歌いながら交流するもので、日本の遊び「勝ってうれしい花いちもんめ」にも通じる、子どもたちもなじみやすいものです。

## 児童生徒とのふれあい

本作品は、児童生徒が役者に声をかけたり、役者の問いかけに返事をしたりと、作品中に観客とのやりとりがしやすいように作られています。

終演後の児童退場時には、演技者が作品中で使用した人形、小道具などを片手に送り出しをし、交流しています。

学校の事情でワークショップができない場合、公演後の舞台裏見学を実施して、更なるふれあいの場を作ります。